Ⅳ－4　本県における アメニティ・タウン計画の例

本県においては、昭和59年度に「上中町」がアメニティ・タウン計画を先行的に策定しています。

また、平成元年度には、本計画と平行して「武生市」、「大野市」、「美浜町」が計画を策定しています。

ここでは、各計画の概要についてとりまとめを行います。

上中町アメニティ・タウン計画（昭和59年度）

□　計画の５つの特色

上中町におけるアメニティは都会と違って、生産活動の問題を抜きにしては考えられません。生産と環境は不可分の関係であり、様々な分野の事業がアメニティに関わってきます。そのような広い視野でアメニティを考えてきたことが、上中町のアメニティ・タウン計画の特色のひとつでしょう。

行政関係者や専門家だけが意見を出したり、調査をするのではなく、町民が自分たちの課題を探り出し、あるいは提案をしたりすることこそ重要です。
そこで、「アメニティ・タウン・シンポジウム」を開き、そこで議論された率直な悩みや具体的な提案を、貴重なデータとして活用しました。

こうした作業を積み重ねて、上中町のアメニティ・タウン計画は「全町公園化構想」という形にまとめられました。
それぞれの集落が「集落公園化」をすすめ、全町の段階ではそれらを統合して、「全町公園化」をめざすという考え方です。これは、快適環境のもとで、生産活動が高まり、経済的にも文化的にも活力あふれる町となるということをめざしています。

上中町は40ほどの集落から成り立っていますが、それぞれの集落の計画を自分たちの手でつくり上げるということが重要であり、集落ごとに懇談会を開催して、語り合いました。そして、最終的には住民の手によって、集落公園化構想をつくり上げました。

集落の個性（コミュニティ・アイデンティティと呼んでいます）を、それぞれの集落ごとに考えることもしました。それが、「集落１分間コマーシャル」という楽しいパフォーマンスにまとめられて、シンポジウムの中で披露されました。大好評を博したのはご承知の通りです。

□　計画書の構成

第１章　いま、基調はアメニティ
1．上中町の生活はこうなっている
2．農村のアメニティとは？
3．快適環境の素材はこんなにある

第２章　アメニティをめぐる課題
1．環境素材の現況と問題点
2．各集落における課題はこれだ
3．計画上の主要な課題

第３章　アメニティ・タウン計画の考え方
1．計画のめざすもの
2．住民の手による計画づくり
3．集落公園化構想の考え方
4．アメニティを生み出すソフトな仕掛け

第４章　全町公園化構想
1．全町公園化構想の考え方
2．文化と経済の街
3．歴史と伝統の街
4．森林浴公園
5．自然体験公園
6．名水歴史公園
7．古墳文化公園
8．工業団地公園
9．親水花木公園
10．観光牧場
11．集落公園化モデル計画
12．アメニティ・ネットワークの形成
13．エコロジカル・ゾーン
14．新事業への対応
15．上中町アメニティ・タウン計画関連事業一覧表
16．39集落公園化計画の概要

□ 町民が語るアメニティの課題

道路の体系的見直しが必要だ！

国道沿いは被害が多い

南北に長いことや、国道27号線が中央を走るために、集落のまとまりを欠いている。

国道に面しているため、自動車騒音、モーテルの進出、ゴミ投棄による水田の汚濁などの問題が顕在化している。

集落内道路の整備方針が必要だ！

集落内幹線道路が狭く曲っており、自道車交通に不便なものとなっている。

県道が山側にバイパス化し、旧県道か集落内幹線となる。これの整備をはかる必要がある。

集落内の道路を、緑道化をはかるなど生活空間として整備をはかる。

集落内道路を整備する必要がある。

旧道を活性化しよう

旧宮川街道という街道があるが、今日的な復元利用方策を検討する。

電柱が邪魔になってきた

圃場整備後電柱がふえた。アース線を土中に入れるので、草刈時ひっかかってやりにくい。

電柱が多すぎる。ヘリて農薬散布をする時、電線にひっかからないように上空を飛ばねはならす、非効率。

伝統的なものの価値に新しい光を当てる必要が出てきた

「聖」なる空間が、縁遠いものになってきた

かって、願かけや行事のシンボルであった不動の滝にあまり行かなくなってきている。

箱ヶ岳（城跡）佐渡守の墓など、歴史的なものが日常生活の中に生きていない。

昔なからの火の見やぐらや社叢林などのふるさとらしさを残すことが大切てある。

ダンシュクの桜という集落のシンボルか衰退している。

伝統的行事や祭りが衰退してきた

八幡神社、円通堂にまつわる行事習慣を伝承していく。

「棒ふり」は最近みられなくなったか、技術が残っているうちに、伝承する必要がある。

「聖」なる空間が「俗」なる空間に侵犯されだした

公民館の建設などの集落の基盤整備によって池沼、社叢林などの身近な自然が失なわれてきている。

ゲートボール場や集落センター、駐車場などの新しい施設か天徳寺境内の森林を伐りはらって、聖域のなかにくい込んできている。

土葬をやめる方法は？

神社境内の墓地が手狭になったので、移転したい。土葬をやめたいと思うが、集落の合意になっていない。

「聖」なる空間を再活性化したいという声も出てきた

瓜割の滝や天徳寺境内の秀れた環境を地域振興の鍵として使うことができないか模索中。

集落のシンボル鏡山を遊歩道、展望台などの整備により、より身近なものとする。

文化財の調査やＰＲが不十分だ

圃場内に館跡があり、時々出土品が出るがきちんとした調査はされていない。

古墳が多いが、ほとんど確認作業かされていない。

庭には無関心という人も多い

きちんとした庭などあまり意識していない。

大規模改修のときの整備方針が必要だ

広域農道の整備を集落整備の中てどう生かすか。

土地改良により、集落環境が一変し（道路、家屋の形状）新たな集落景観づくりか必要。

数少ない平場をどう活用するか？

未利用土地が約１haほどあり、子供の遊び場等の活用方策を検討する必要かある。

遠土地川沿いに町内唯一といってよい平場があり、自然公園等に活用をはかれないか。

町の「顔」をどう整えるか？

上中町のセンター機能が市場とともに集中しており、都市的な整備をはかる必要がある。

住民センター等、町のセンター機能か集中しており、「町の顔」としての環境整備の必要がある。

近代化は伝統的技術と景観を駆逐する

カントリーにもみがらつきで出すので、集落内にもみがない。したがって名物のサトイモを保存することができず、自然がすたってしまった。

コンバインを導入したので藁が全然ない。カリ手は70才以上に多数いるが、屋根材の方が全く手に入らない。

「川」をどうするか？

河川改修で、親水空間が失われた

砂防指定河川は、三面張による整備か進められている。小河川の自然環境か失なわれている。

河川改修によってか、井戸水か枯れてきているという問題かある。

用排水の管理が不十分だ

集落内に圃場か入っているので、用水路と排水路の区分がさだかでなく、圃場内に排水が入ったり、生活汚水か停滞したりで、とてもくさい。

用水に昔ほどの流れがないので田に水を引くと、雑排水が入りこむ。きたなくて、きもち悪いがしかたない。

三面改修の方がやりやすいという声が多い

天徳寺境内の昔ながらの石積がふくれてきている。手っとり早く三面張の改修の要望が集落内から上ってきている。

北川の河川改修の土木工事て下吉田はうるおっていた。

水が汚れ、小動物が減り泳ぐ気がしない川になった

上中町の最下流なので川の水がきたない。昔はホタルがとびかってとてもきれいだった。

昔は川で泳いだ。今はきたなくて泳がない。

洪水箇所の改善を！

昔は水つき田んぼの土地。今も河川合流点て洪水のケース多くあり。

ホタルの棲む川にしたい

わき水、小河川の保全により、ゲンジボタル生息などの自然環境をより豊かにする。

「公」的財産や空間の管理が負担になってきた

区有林の手入れが、負担になってきた

区有林には、年２回下草刈り等の管理を行っているが、作業が大変である。(経済的価値かあまりないのに)。

かなり広く区有林を持つが、あまり活用されていない。

ため池は大事だが、手入れが大変だ

ため池は、コイ、フナ、オシドリなどの生息環境を保存する。

タメ池が山のなかにある。水不足なので、カサ上げしなくてはならない。これも地区の仕事だ。

嶺南牧場、ゴルフ場に共有地（５区共有）を売り、1700万円を手にした。集落センターの地元負担金にこれをあてた。

野猿の被害に大弱り！

水田ばかりでなく、畑での「かんらん」「かぼちゃ」などを栽培しているが、野ザルによる被害が著しい。

畑への野ザルの被害が大きく、解決する必要かある。

□ 計画のめざすもの

（1） 全町公園化の構想
—町全体を公園のような快適環境にする—

（2） 集落の個性(コミュニティ・アイデンティティ)の確立
—各集落の特性を踏まえて、個性的な集落づくりを進める—

（3） 全町と集落の調和
—各集落の個性をいかしつつ、全町の統一性を図る—

（4） ハードとソフトの統合
—物的な施設整備と管理の仕組みづくりを並行して進める—

（5） 環境にふさわしい暮し方
—恵まれた環境を堪能できるライフ・スタイルをつくってゆく—

□ 全町公園化構想

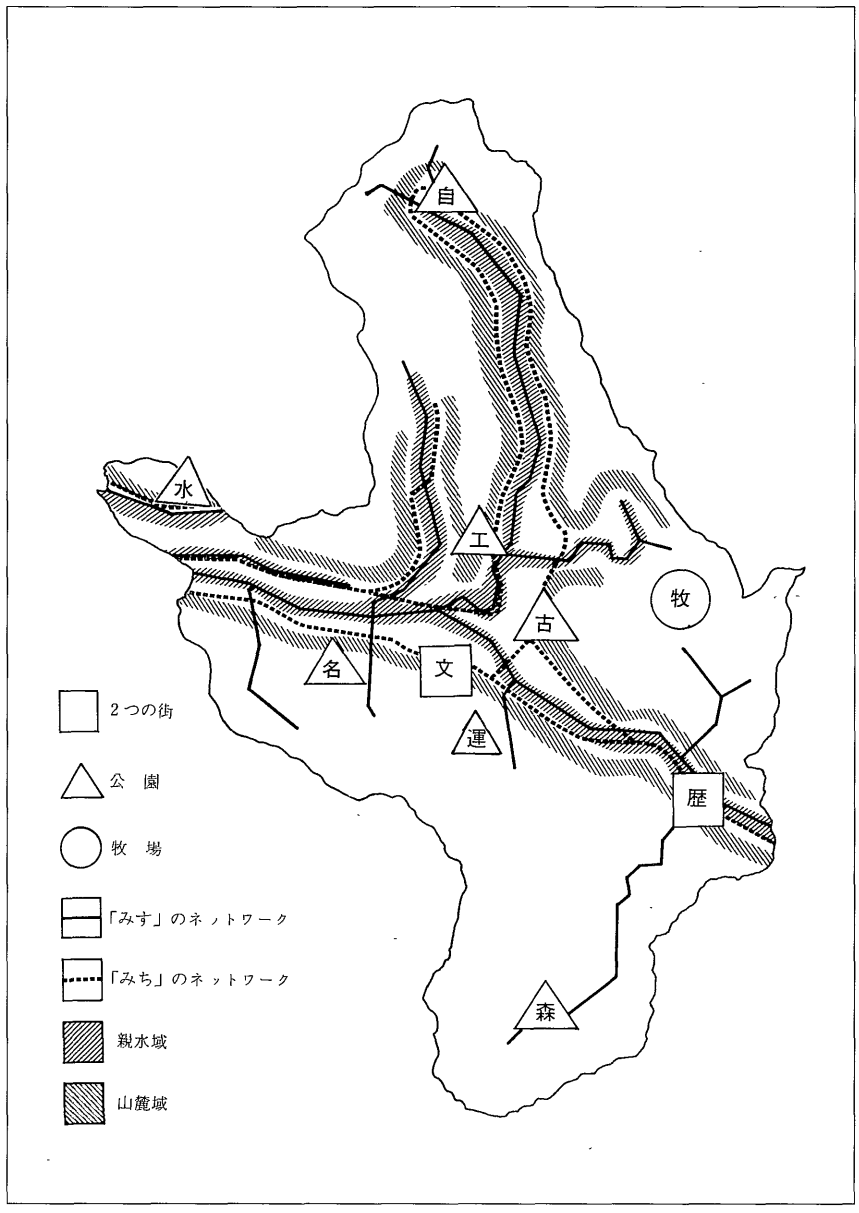
全町公園化構想の全体像

1 アメニティ・コアの形成
(1) 2つの街
① 文化と経済の街（市場、井ノ口）
② 歴史と伝統の街（熊川）
(2) 公　　園
① 森林浴公園（河内）
② 自然体験公園（海士坂、三生町）
③ 名水歴史公園（天徳寺、神谷）
④ 古墳文化公園（脇袋）
⑤ 工業団地公園（堤周辺）
⑥ 親水花木公園（中野木）
(3) 牧　　場
① 嶺南観光牧場

2 アメニティ・ネットワークの形成
(1) 「みち」のネットワーク
(2) 「みず」のネットワーク

3 エコロジカル・ゾーン保全活用
(1) 親水域
(2) 山麓域

4 39集落公園化構想



□ 上中町アメニティ・タウン計画関連事業一覧

類型			事業名
全町公園化計画	2つの街	中心市街地整備	中心市街地整備基礎調査
		歴史的町並み保存	熊川宿歴史的町並保存事業
	公園	森林浴公園	森林浴公園環境整備事業
		自然体験公園	自然体験公園整備事業
		名水歴史公園	名水歴史公園整備事業
		古墳文化公園	古墳文化公園整備事業
		親水花木公園	親水花木公園整備事業
		工業団地公園	仮称「上中工業団地」建設基礎調査
	牧場	嶺南観光牧場	嶺南牧場活性化事業
	ラインとスポット	旧道再生	旧道沿道環境整備事業
		河川エコロジカル整備	河川エコロジカル整備事業
		アメニティ・スポット	アメニティ・スポット整備事業
集落公園化計画		アメニティ・パーク	集落公園整備事業
		集落の個性（C I）づくり	集落環境整備事業
		モデル住環境	生活道路整備事業
		コミュニティ・コモン・コンプレックス	コミュニティ施設整備事業
啓発事業	啓発等	アメニティ教育	上中町アメニティ・タウン大学
		顕彰	アメニティ活動顕彰制度
		シンポジウム	アメニティ・タウン・シンポジウム
		自然に触れるイベント	森林浴ＰＲイベント
		アメニティ学校教育	副読本「アメニティ・タウン上中」作成
他	特産品開発	特産品開発	特産品開発事業

□ 39集落公園化計画の概要

1	大鳥・羽	2	黒田
「あんずの里」づくり (1) 特産品の開発 あんずの加工研究会を発足させ、技術の蓄積をはかり、特産品の開発を行う。 例 あんずジャム、あんずアクセサリーなど (2) あんずの植樹 公共施設の周辺、鉄道沿い、集落内道路沿いをはじめ、各戸に3本以上のあんずの植樹を積極的におこなう。 (3) 湧水地点のシンボル空間化 湧水地点の周辺を整備し、住民のいこいの場として整備する。 (4) 集落内道路のC.W 集落内道路に隣接する空地をとりこんで、集落内道路を安全で快適な空間として整備する。		「産士（うぶすな）の博物館」づくり (1) 豊かな自然スポットの保全 シャクナゲの群生地、サカキの群生地、サンショウウオ、モリアオガエルの生息地など豊かな自然が残っており、その生息地、群生地の保全をはかる。 (2) 遊歩道の整備 (1)のスポットをめぐる学習遊歩道の整備を行なう。 (3) 集落環境整備 集落内の荒地等を活用し、「古墳の丘公園」「ほたる広場」「みちくさ公園」などの住民の利用可能な拠点の整備を進める。	
3	麻生野	4	海士坂
「総合観光農園」づくり (1) 果樹園 他の集落では見られない梨を中心に、他種の栽培を行なう。 (2) 特産品の開発		身近な自然を生かす (1) 遠土地川上流の自然体験公園 遠土地川は、家もなく閉鎖水系であり、平坦な土地も多い。従って旧来の植生を生かした活動的な自然体験公園を整備する。たとえば、川での魚とり、水生動物、昆虫などの観察学習を行なう。川あそび広場や、キャンプ場、昆虫園などを整備する。	

武生市アメニティ・タウン計画（平成元年度）

□　武生市におけるアメニティの考え方

武生市のアメニティ・タウン計画を策定する前提として、基本的レベルにおいて共通した認識をもち、一貫した考えのもとに計画策定を行うため、武生市におけるアメニテイの考え方を「アメニティづくり」という観点から以下のように整理します。

アメニティづくりのめざす姿は、美しいまち　美しいこころ

アメニティづくりの基盤は
武生市の風土から醸（かも）し出される「武生らしさ」

アメニティづくりの活力源は市民一人ひとりの地道な行動力

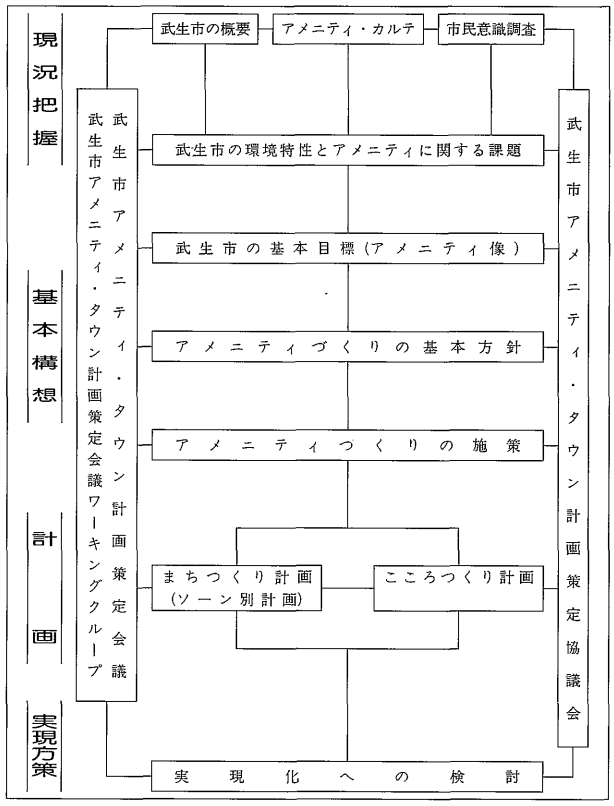
□　計画の目的

1．快適環境の目標づくり
2．各種行政施策への指針
3．市民によるアメニティづくり

□　計画の構成

（序論）
Ⅰ　アメニティ・タウン計画策定の基本的考え方
　Ⅰ－1　アメニティの考え方
　Ⅰ－2　アメニティ・タウン計画の目的と構成
（現況把握編）
Ⅱ　武生市の環境特性とアメニティに関する課題
　Ⅱ－1　武生市の概要
　Ⅱ－2　市民意識調査の概要
　Ⅱ－3　武生市の環境特性
　Ⅱ－4　アメニティに関する課題
（基本構想編）
Ⅲ　基本目標と施策の方向
　Ⅲ－1　武生市の基本目標（アメニティ像）
　Ⅲ－2　アメニティづくりの基本方針
　Ⅲ－3　アメニティづくりの施策
（計画編）
Ⅳ　美しい武生のまちづくり計画
　Ⅳ－1　ゾーンの設定
　Ⅳ－2　ゾーン別計画
Ⅴ　美しい市民のこころづくり計画
　Ⅴ－1　市民への普及・啓発計画
　Ⅴ－2　アメニティ推進の組織づくり
（実現方策編）
Ⅵ　実現化への検討
　Ⅵ－1　目標期間の設定
　Ⅵ－2　先導的施策

□　計画のフローチャート



□ アメニティに関する課題

自然の営みを守り、市民生活との調和を考えながら有効活用を図っていく必要があります

・自然（山、川）の保全と活用
・市街地内の緑や水とのふれあいの場の創出

先人の遺産を大切に守り、魅力的な地域文化を育む必要があります

・歴史的遺産の保全と周辺整備
・市民文化の振興と文化交流の促進
・伝統工芸の振興

市民の誇りと愛着を培う、いきいきとした美しいまちの創造を図っていく必要があります

・武生ならではの魅力的なまちの形成
・雪に強いまちの形成
・各種プロジェクトの体系化と連携の強化

アメニティに対する意識の高揚と市民参加のまちづくりの強化、推進を図る必要があります

・アメニティ意識の普及・啓発
・市民と行政の協力体制と役割分担

□ 基本目標（アメニティ像）と基本方針

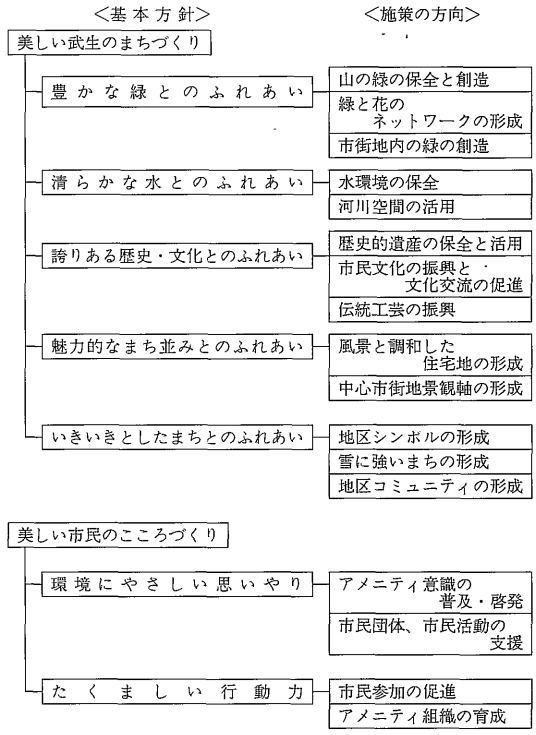
基本目標（アメニティ像）

―市民一人ひとりが参加する―
歩いて楽しいまちづくり

『ふれあい』……市民一人ひとりが武生の良さにふれあい、そして、人と人のふれあいを通して、武生の良さをみがきあげていく。

『思いやり』……市民一人ひとりが身の周りの環境に対して思いやりのこころをもち、自らが積極的に行動していく。

『武 生 美』……美しい武生のまち
美しい市民のこころ



□　美しい武生のまちづくり計画（ゾーンと計画方針）

自然保全ゾーン（非可住地区）

計画方針　［山地部］・保全と生産、保全と開発の調和を図り、山々の風景を守る。
・山とのふれあい、自然の豊かさ、自然の大切さを学ぶ。
［河　川］・水とふれあえる親水拠点公園を創出する。
・水辺の動植物がいきいきとしている親水空間を創出する。

農山間地ゾーン

計画方針
・山々や田園風景と調和した花と緑にあふれた〝むら〟を創出する。
・鎮守の森、瓦の家並み、小川のせせらぎなどの身近な素材をいかしたふるさとのシンボルを創出する。
・土や木や水の恵みをいかした活力あるふるさとを創出する。
・農業用施設を有効に活用し、豊かな地域環境を創出する。

市街地周辺ゾーン

計画方針
・緑豊かな開放的なまち並みを創出する。
・身近な緑や水とのふれあい、人々が語り合える空間を創出する。
・住民参加のまちづくりを推進する。

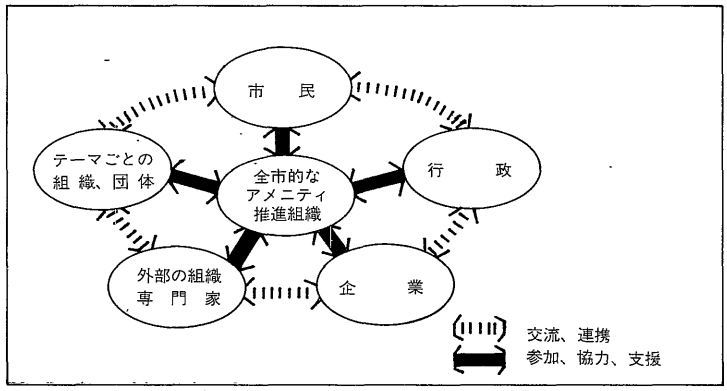
中心市街地ゾーン

計画方針
・丹南地域の中核都市としての風格あるまち並み景観を創出する。
・緑豊かな公園やまちの目印となるポケットスペースを創出する。
・豊かな歴史や自然をいかし、活力あるまちづくりを推進する。

□　美しい市民のこころづくり計画

＜市民への普及・啓発計画＞
・アメニティ・カルテ、アメニティ・マップの作成と利用
・学校教育、社会教育を通した環境教育の推進
・アメニティづくりＰＲ
・アメニティ実践活動への支援

＜アメニティ推進の組織づくり＞
①　地区単位での推進体制
②　テーマごとの推進体制
③　企業との協力による推進体制
④　外部との交流
⑤　全市的な推進体制

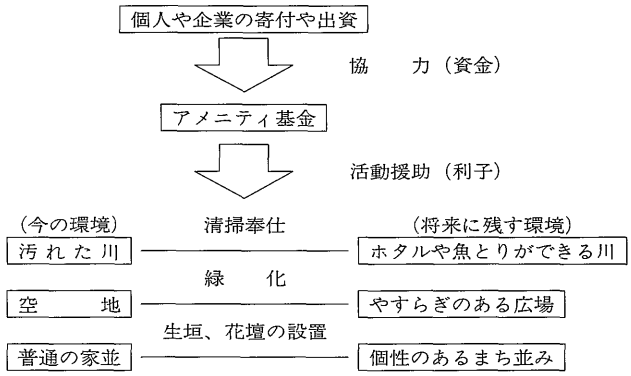


〔市民参加のアメニティ推進体制〕

□ 先導的施策

① アメニティ基金の創設

アメニティ基金は、市民の皆さんからの貴重な浄財を積み立てて、アメニティのための市民活動や緑化運動、例えば「花苗や種子の配布」、「個人の生け垣、前庭等の設置への助成」、「市内空地等の緑化と維持・管理への援助」などに活用しようとするものです。



［アメニティ基金運用の概念図］

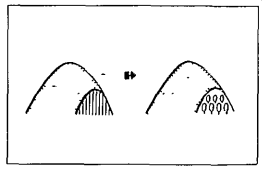
② アメニティ13ヶ条の設置、普及・推進

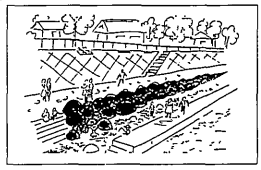
アメニティ13ヶ条

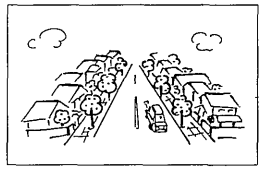
わたしたちのまち武生をアメニティあふれるまちにしていくためには、その第一歩として市民一人ひとりが身の周りの環境に気を配り、以下のことを守っていきましょう。

まちづくり6ヶ条

1　山はだは緑化に努め、自然の風景を守りましょう。
2　河川整備は自然とのふれあいを大切にしましょう。
3　歩道や散歩道は楽しく歩けるようにしましょう。
4　商店街づくりは楽しくショッピングできるようにしましょう。
5　道路空間は積極的に緑化しましょう。
6　建物は歴史や周囲の景観に気を配りましょう。

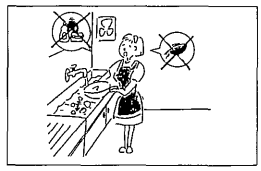

山はだの緑化

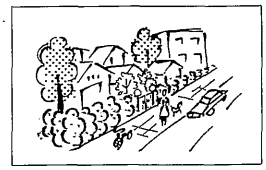

水とのふれあい


道路空間の緑化

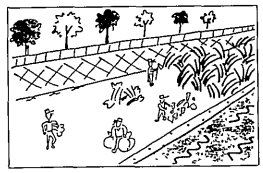
こころづくり7ヶ条

1　台所からの排水に関心をもちましょう。
2　家の前に庭や生け垣をつくりましょう。
3　公園の緑や並木はみんなで育てましょう。
4　所得の１％を緑化に使いましょう。
5　ゴミの投げ捨てはやめましょう。
6　伝統行事、祭祀の保存に努め、積極的に参加しましょう。
7　冠婚葬祭の簡素化に努めましょう。


台所からの排水に関心を


生け垣、前庭をつくろう


公園の花や木を大切に


清掃活動へ参加しよう

③ アメニティ奨励賞

アメニティ向上に大きく貢献している市民（団体）にアメニティ奨励賞を贈り、今後益々の活躍を期待するとともに、周りの市民（団体）へのアメニティ推進活動の啓発を期してアメニティ奨励賞を授与します。